

「吃音支援ガイド」 教師用

吃音の正しい理解と 支援のために

本ガイドは吃音の理解啓発と、吃音のある児童たちが安心して学校生活を送れるように、そして、吃音指導に悩む先生方の指導の入り口として活用してほしいという想いで作成しました。また「児童用」「保護者用」も一緒に活用し、児童と保護者と共通理解を図りながら、吃音指導に取り組んで頂きたいです。

吃音とは？

自分の思うようにスムーズに話せないこと

吃音は「どもり」や「どもること」と言われることもあります

吃音について



外から見える症状

本人の心理的負担

発症状況や原因

- ・2～4歳の20人に1人（5％）の割合で発症するが、3年以内に男児の6割、女児の8割は自然回復（自然治癒）する。男女比では4：1で男子が多い。
- ・思春期・大人になっても100人に1人（1％）は吃音がある。
- ・吃音の割合は、国や文化、人種が異なっても、ほぼ同じ割合で存在する。
- ・原因は特定されておらず、治療法もまだ確立されていない。

吃音の特徴

- ・歌や複数の同時朗読などではどもらない。
- ・症状には目立つ時期、目立たない時期の「波」がある。
- ・症状は話す相手や場面によって異なる。
- ・吃音の起りやすい音や場面がある。
- ・連発から伸発、難発へと移行する。
- ・話す前にどもることを予期して、不安を感じたりする（予期不安）。
- ・吃音を気にしないで話す状態から、吃音を隠したりする状態へ進展する。

吃音を目立たなくする工夫・隠す工夫

- ・「あの一」「えっと」を使う（挿入）
 - ・言いやすい前置きをつける（助走）
 - ・言葉の順序を入れ替える（置き換え）
 - ・どもらない言葉を選ぶ（言い換え）
 - ・膝を叩く、腕を振るなど（随伴症状）
 - ・すべてを言わずだまる（中止）
 - ・しゃべる場面から逃げる（回避）
- 回避を頻繁に行うと、社交不安障害に繋がる恐れが高くなる。

◎吃音の起りやすい場面

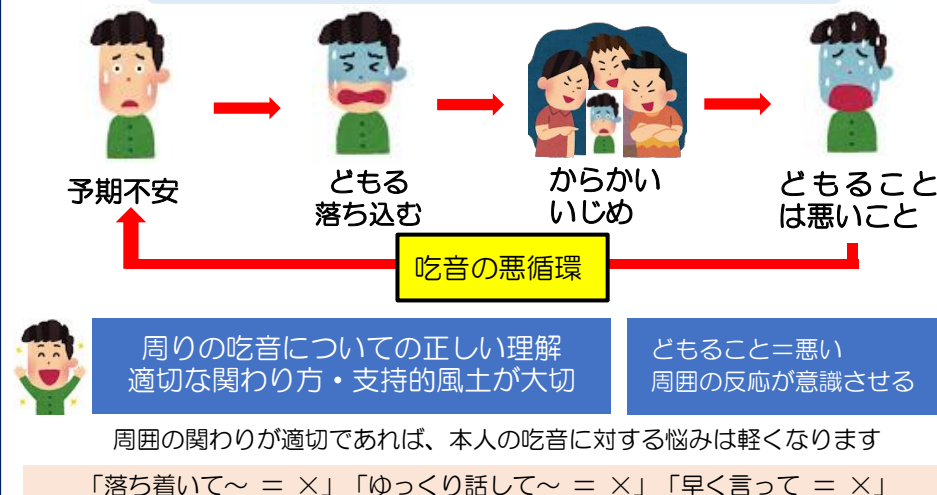


- ①長く話す
- ②聞き手の数が増える
- ③苦手な言葉がある

学校では・・・
朗読 発表 自己紹介
号令 九九 など
言い換えが出来ない言葉を使う場面

「どもること＝悪い」が引き起こす悪循環

当事者にとって一番辛いことは外見上の吃音ではない
「話す前の予期不安」「どもった後の落ち込み」



吃音のある児童の支援充実に向けて

吃音についてもっとしりたい



【 おすすめの書籍 】
『 吃音のことがよく分かる本 』
（菊池良和：講談社）
『 子どもの吃音サポートガイド 』
（小林宏明：合同出版）
『 吃音ワークブック 』
（伊藤伸二：解放出版社）

【 おすすめのHP 】
『 吃音ポータルサイト 』
（金沢大学 小林宏明のHP）
『 日本吃音臨床研究会 』
（伊藤伸二のHP）
『 NISE 学びラボ 言語障害教育 』
（特別支援教育に関するHP）



児童の吃音の状態は？

入学や進学、長期休み明けなどに先生から話して状態を確認して下さい。

吃音の状態を
色々教えてね



先生が分か
ってくれて
安心だな

吃音アンケートなどで
聞き取りするのもアリ！
『吃音ポータルサイト』の
中にも資料があります。

クラスに伝える（理解啓発・支持的風土づくり）

❗ クラスに説明する前に

- ・ **本人、保護者と話し合ってから説明する。**
- ・ 説明を本人は望んでいるか確かめる。
- ・ 説明の仕方は？
- ・ 説明は本人がいる時に？いない時に？
- ・ みんなに協力してほしいことは？
- ・ やってほしくないことは？ など

説明後に限らず、吃音に対するからかいが起きた場合、すぐにやめさせて下さい！
からかわれると症状が悪化しやすく悪循環になりやすくなります。



吃音理解だけに限らず、
その他の障害理解を含めた
指導が大切です。

クラスへの説明の例

- ・ 「〇〇さんは小さい頃から話す時に、言葉が出にくいことがあります。」
- ・ 「つかえて話したり、話し始めるまでに少し間があいてしまったりすることがありますが、わざとではありません。」
- ・ 「話し終わるまで、ゆっくり聞くようにすると、〇〇さんは話しやすくなります。」
- ・ 「話し方を真似したり、せかしたりしないで、〇〇さんを助けてあげて下さいね。」

学習会の開催や参加

沖縄県難聴・言語障害研究会（難言研）の勉強会

難聴・言語障害の指導に携わる者の専門的知識、指導技術の習得を行うために地区で研究部会を設けています。

吃音に関する講話や研究発表などもこれまで開催しています。



- ・ 吃音指導の専門性の高い先生方もいます。指導法や吃音教材など、多くのことを学び専門性を高めていきましょう。

保護者や他関係機関との連携

保護者との連携

- ・ 保護者は我が子の吃音に対して不安、心配を抱えるのは当然です。保護者の気持ちに寄り添い、保護者の安心感に繋がる取り組みや、連携を図っていきましょう。

先生と連携
が取れてい
ると子ども
も安心ね。



- ・ お子さんの吃音で配慮してほしいことはありますか？
- ・ こんな変化がありましたよ
- ・ こんな情報がありますよ
- ・ 一緒に考えていきましょう

他関係機関との連携

『おきなわ吃音研究会』

- ・ 沖縄県の言語聴覚士が始めた団体です。地域での吃音理解を深め吃音と共に生きる力を大事にしています。
- ・ 「吃音親子キャンプ」などを主催し、吃音の理解啓発にも努めています。

○吃音親子キャンプの様子もHP みることができます。



授業での配慮・環境調整

授業での配慮があると、安心して授業を受けることができます = 自己肯定感の向上にも繋がる

理科や音楽の専科の
先生にも伝えておくれ。

配慮がある
と安心だな

2人きりの安心できる環境で

配慮の仕方や内容は個人で異なります。
思い込みで決めず、必ず相談しながら
決めましょう。

- ・ 発表の時はどうしたほうがいい？
- ・ 順番に指名しても大丈夫？
- ・ 指名して OK や NG のサインなど決める？
- ・ 音読の時は？
- ・ 日直の号令や司会は？ など



まわりから特別扱いに見えない、
さりげない配慮をお願いします。

◎プレッシャー になる場面



- （例） 『時間制限を設けた活動』
- ・ 九九のテスト（時間制限内に言う）
 - ・ 1人ずつ発表して時間を競う など